

2026年2月26日

各位

株式会社北洋銀行

ほっく一障がい者スポーツ基金を通じて デフリンピック出場選手2名へ助成金を贈呈しました！

北洋銀行(頭取 津山 博恒)は「ほっく一障がい者スポーツ基金」を通じて、北海道の障がい者スポーツに取り組む選手2名へ総額76万円の助成金を贈呈しました。

本基金は、当行でお取り扱いしている「SDGs(パラスポーツ応援)私募債」発行額の0.2%相当額を拠出し、道内の障がい者スポーツ活動に取り組む選手や団体等に、官民連携で構成している「ほっく一障がい者スポーツ基金選定協議会※」による協議を踏まえ助成しています。これにより、本基金による助成額は2,786万円(延べ64先)となります。

今年度の助成選手は、東京2025デフリンピックにて活躍された森本 悠生選手(バドミントン)と川真田 結菜選手(水泳)です。詳細につきましては別紙を参照ください。

当行は今後も地域のお客さまとともに障がい者スポーツを支援し、多様性を尊重するより良い共生社会の実現と、地域社会の発展に貢献してまいります。

※ 選定の妥当性・公平性・透明性を図るため、北海道、札幌市、公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会、一般社団法人札幌市障がい者スポーツ協会、株式会社北海道新聞社、当行により構成しています。

記

【ほっく一障がい者スポーツ基金助成先】



左:森本 悠生選手(バドミントン)
右:北洋銀行豊平支店長 多田 直文



左:川真田 結菜選手(水泳)
右:北洋銀行北広島中央支店長 森本 寛

以上

《北洋銀行グループ サステナビリティ方針》

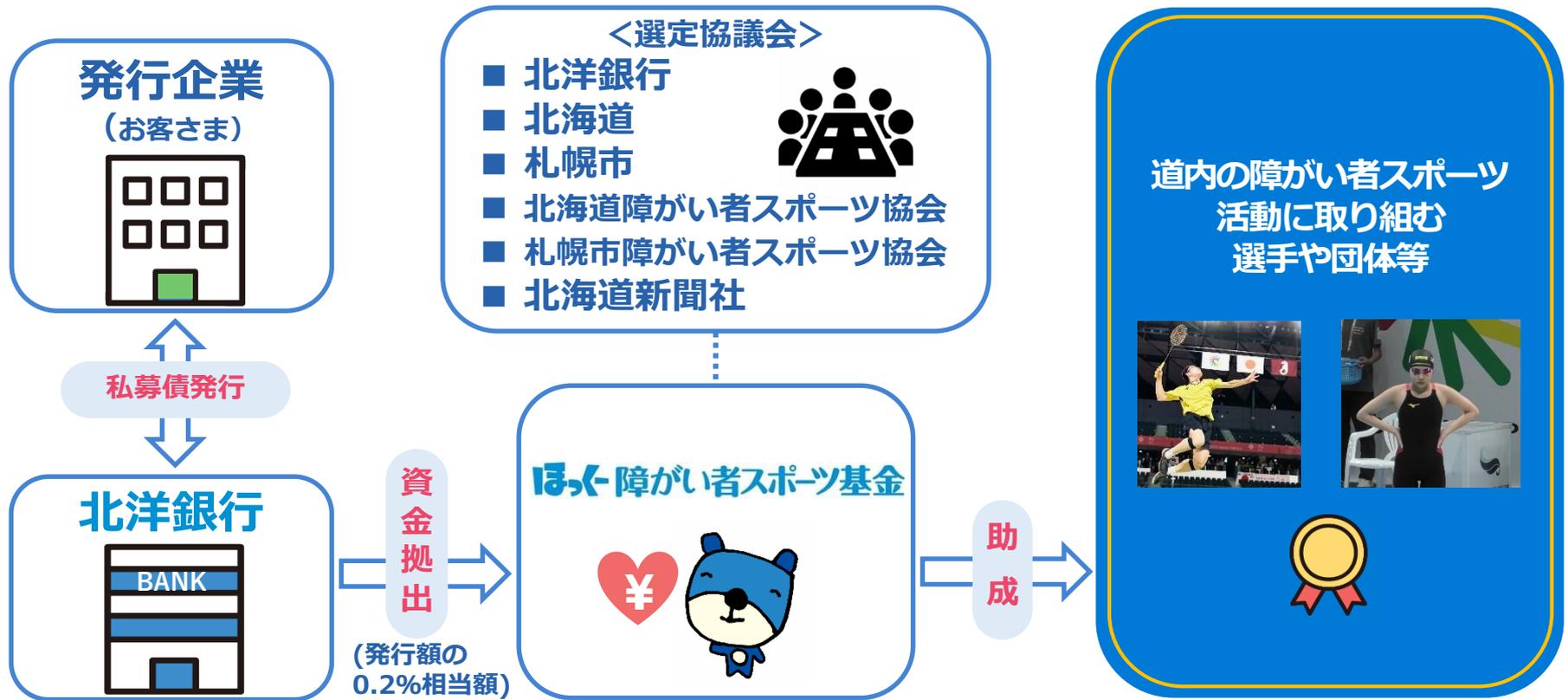
北洋銀行グループは「経営理念」と「行動規範」に基づく企業活動を通じて、当行グループを支えていただいている全てのステークホルダーと地域社会・環境の持続的発展に貢献するとともに、当行グループの中長期的な企業価値の向上と持続的経営の実現に努めます。



ほっく-障がい者スポーツ基金
2025年度 助成先のご紹介

SDGs (パラスポーツ応援) 私募債について

お客さまに私募債を発行いただくことで、北洋銀行が「ほっくー障がい者スポーツ基金」を通じて道内の障がい者スポーツ活動に取り組む選手・団体等に助成金を贈ります。



🏸 2025年度助成先 🏊

2025年度は総額76万円を助成します。

「ほっく一障がい者スポーツ基金選定協議会」にて助成先の選定を行い、次の2名に決定しました。



森本 悠生選手
〈バドミントン〉



川真田 結菜選手
〈水泳〉

森本 悠生 選手

障がい名：先天性難聴による聴覚障害
競技：デフバドミントン
所属：北海高等学校バドミントン部



競技を始めたきっかけ

バドミントン経験者である父親に教えてもらったのがきっかけです。

主な競技成績

2025年11月 東京
第25回夏季デフリンピック競技大会（東京2025デフリンピック）
男子シングルスベスト16、男子ダブルス準優勝（銀）
混合ダブルス予選リーグ敗退、混合団体戦優勝（金）

2024年12月 マレーシア
第10回アジア太平洋ろう者競技大会
男子シングルスベスト16、男子ダブルス3位（銅）
混合団体戦優勝（金）

2023年7月 ブラジル
第6回世界デフバドミントン選手権
男子シングルスベスト8（入賞）、混合団体戦準優勝（銀）

2023年7月 ブラジル
第3回世界デフユースバドミントン選手権
男子シングルス準優勝（銀）、混合ダブルス優勝（金）



森本 悠生 選手

障がい名：先天性難聴による聴覚障害
競技：デフバドミントン
所属：北海高等学校バドミントン部

🏆 東京デフリンピックに出場した感想

日本で初開催となったデフリンピックに、日本代表として参加させていただき、大変光栄に思いました。

男子ダブルスの準決勝で勝利してメダルが確定した瞬間と混合団体戦で金メダルが決まった瞬間が特に印象に残っています。

男子ダブルスの準決勝は本当に苦しいものがありました。

対戦相手はタイのペア（世界ランク1位）で、2024年のアジア大会の準決勝で負けている相手でした。

メダルをかけた闘いの重圧、勝っても負けても、次は日本人同士の対戦となる可能性があったことから、体力的・精神的にも苦しいものがありました。自分の今までやってきたことを信じて攻め続けた結果、勝利することができました。これまでの努力が報われたと実感できた瞬間でした。



🏸 競技を楽しむために必要なこと、また心がけていることは？

バドミントンという競技は年齢や性別に関係なく全ての人が楽しめる生涯スポーツですが、デフ（耳の聞こえない）バドミントンの場合は、静寂の中でのプレーとなるため独特の奥深さがあると思います。

特にダブルスではプレー中の音は勿論、お互いの声が聞こえない状況下でのプレーとなりますので、視覚を大事にしたプレー、パートナーとの阿吽の呼吸が勝利の鍵となります。

日頃からパートナーとのコミュニケーションを大事にすることを心掛け、戦略を立ててプレーすることが必要となるところにデフバドミントンの醍醐味を感じます。

🚩 今後の目標

2029年に「ギリシャ・アテネ」で行われるデフリンピックで、今回取りこぼした個人戦での金メダルを獲得すること

川真田 結菜 選手

障がい名：感音性難聴
競技：水泳
所属：JDSA JSS清田



🏊 競技を始めたきっかけ

5歳の時に、姉と妹と3姉妹で、父の強い希望で始めました。

🏆 主な競技成績

2025年11月 東京

東京デフリンピック2025

女子4x100M メドレーリレー 3位、女子 100M背泳ぎ4位入賞

女子 200M 背泳ぎ6位入賞、女子50M 自由形14位

混合 4x100M メドレーリレー 4位入賞

女子 4x100M フリーリレー 5位入賞

2025年7月 北海道

第48回(2025年度)全国JOCシニアリハビリカップ°夏季水泳競技大会
北海道予選会

女子13~14歳 200M 背泳ぎ1位

2024年9月 和歌山

第18回 日本デフ水泳競技大会

女子中学校の部 100M背泳ぎ 1位 / 50M バタフライ 1位

2024年8月 東京

第47回(2024年度)全国JOCシニアリハビリカップ°夏季水泳競技大会

女子13~14歳 4 x 100M フリーリレー出場



川真田 結菜 選手

障がい名：感音性難聴

競技：水泳

所属：JDSA JSS清田



🏆 東京デフリンピックに出場した感想

東京2025デフリンピックでは、世界中の選手と同じ舞台上で泳ぐことができ、とても貴重な経験になりました。

最後の種目のメドレーリレーでメダルを取れたことは本当にうれしく、チームのみんなとの頑張りが結果につながったことを実感しました。

一方で、メインの種目でベストなタイムを出せなかったのが悔しかったです。この大会で感じたことや学んだことを、これからの練習に生かしていきたいと思っています。

👁️ 競技を楽しむために必要なこと、また心がけていることは？

まず「泳ぐことが好き」という気持ちを大切にすることだと思います。

練習では、昨日より少しでも良くなることを目標にして取り組んでいます。

また、しっかり睡眠をとったり体のケアをしたりして、良いコンディションで練習できるように心がけています。

応援してくれる家族や周りの人への感謝の気持ちも忘れないようにしています。

🚩 今後の目標

これからも、もっと速く泳げるように、技術も体力もレベルアップしていきたいです。

3年後にギリシャで開催される予定のデフリンピックで、個人種目でメダルを獲得することを目標にしています。

また、デフスポーツの楽しさや魅力を、もっとたくさんの人に知ってもらえるような活動もできたらと思っています。

「SDGs(パラスポーツ応援)私募債」発行企業一覧
(企業名の公表に応諾いただいたお客さまのみ)

敬称略・私募債の発行日順
(2024年度発行)

発行企業名	代表者
株式会社東海林工業	東海林 圭
株式会社フレンセル	菊池 昭宏
株式会社久次米清掃	村上 敏信
株式会社OMフーズ	三國 成能
株式会社アイディー機工	井ノ口 拳志
株式会社リサイドワン	田中 和也
株式会社日興テクノ	佐藤 和美